

(人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に則る情報公開)

このたび以下の研究を実施いたします。本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

本研究の研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧をご希望の場合や個人情報の開示や個人情報の利用目的についての通知をご希望の場合も問い合わせ窓口にご照会ください。なお、他の研究参加者の個人情報や研究者の知的財産の保護などの理由により、ご対応・ご回答ができない場合がありますので、予めご了承ください。

【研究計画名】 パーキンソン病と類縁疾患の姿勢異常に対するリハビリテーションとドカイン注射による治療効果の検証

【研究責任者】 神経内科診療部医師 向井洋平

【本研究の目的及び意義】

パーキンソン病や類縁疾患(多系統萎縮症、進行性核上性麻痺など)の患者には体や首が曲がる姿勢異常が合併することがあります。いまだその原因は不明な点が多く、治療法も確立していません。国立精神・神経医療研究センター病院(以下、当院)では積極的に姿勢異常の評価・治療を行っています。

多くの患者が姿勢異常の治療目的で当院に入院した結果、リハビリテーションだけで十分に姿勢が改善する方が少なからず存在することが経験的に明らかになってきました。

リハビリテーションは当院に限らず日本国内においては、理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)が患者を評価し、その症状に応じてその内容を決めて実施するのが一般的です。そのため同じ疾患・同じような症状であっても、セラピスト(PT、OT、ST)の判断次第で全く異なるリハビリテーションが実施されることがあります。そこで当院では、姿勢異常のリハビリテーションや治療に携わる理学療法士、神経内科医、整形外科医が相談し、姿勢異常のリハビリテーションの手順を統一しました。一般に、担当セラピスト間の実施内容に差が大きいとリハビリテーションの効果の検証は難しいのですが、内容が均てん化されたことで、当院での姿勢異常のリハビリテーションの効果の検証が可能となりました。当院では現在までドカイン注射による姿勢異常の治療の研究を行ってきましたが、これからはリハビリテーションの効果の検証も行いたいと考えています。本研究では、当院で実施されているリハビリテーションやドカイン注射による姿勢の改善効果を検証し、今後の姿勢異常の治療の向上に役立てることを目的としています。

【本研究の実施方法及び参加いただく期間】

対象となる方

2017年7月1日より2022年3月31日までの間に、当院で姿勢異常の治療を開始したパーキンソン病もしくはパーキンソン病類縁疾患(多系統萎縮症、進行性核上性麻痺など)の患者。

利用する試料・情報等

情報等:診療録(年齢、性別、診断名、罹病期間、Hoehn Yahr 重症度分類、MDS-UPDRS、治療内容、全身写真、骨格レントゲン、歩行解析の結果、重心動揺計の結果、重心可動域検査の結果など)

なお MDS-UPDRS とは国際運動障害学会(Movement Disorder Society)が作成した、Unified Parkinson's Disease Rating Scale 改訂版のことです。MDS-UPDRS を用いることで、パーキンソン病の運動症状や非運動症状を、世界統一基準の尺度で評価できます。この評価で用いる情報は問診と神経学的診察のみです。

研究期間

2018年5月1日より2023年3月31日まで

2018年3月

○問い合わせ窓口

研究担当者 国立精神神経医療研究センター病院神経内科 氏名 向井洋平
〒187-8551 東京都小平市小川東町4-1-1 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
042-341-2712(内線)3193

○苦情窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター倫理委員会事務局
e-mail:ml_rinrijimu@ncnp.go.jp